

5900万人の命が救われました

グローバルファンドのパートナーシップが支援したプログラムによって、2022年末までに5900万人の命が救われました。2002年以来、エイズ、結核、マラリアを総合した死亡率は、55%減少しました。コミュニティ、プログラム実施国の政府、民間セクター、市民社会、そして技術専門家の協働によって、エイズ、結核、マラリア関連プログラムは新型コロナウイルス感染症による打撃から力強い回復を遂げ、複数の記録の成果を挙げました。

しかし気候変動や紛争、深まる不平等や人権に関わる脅威の増大といった多くの課題により、2030年までにエイズ、結核、マラリアを終息させるという目標の達成がますます危うくなっています。これら三大感染症を終息させるには、感染に拍車をかけている深刻な不平等を解消するための活動を加速化しつつ、革新的取組に継続的に資金を投じていく必要があります。

三大感染症対策の現状

HIV/エイズ

グローバルファンドは、国際的なエイズ対策支援金の28%を提供しています。支援対象国におけるエイズ関連死亡者数は2002年から2022年にかけて72%減少しました。エイズ関連プログラムは新型コロナウイルス感染症の影響からおおむね回復し、予防サービスを受けた人々も大幅に増加しました。しかし世界の多くの地域で、感染率が上昇しています。この傾向を覆すには、保健サービスにおける人権やジェンダー関連の障壁を排除するための活動に投資を継続する必要があります。

結核

グローバルファンドは国際的な結核対策支援金の最大の提供機関であり、全体の76%を拠出しています。支援対象国における結核死亡者数(HIV陽性を除く)は2002年から2021年にかけて16%減少しました。結核関連プログラムは2022年に急速な回復を遂げ、2020年の後退を解消しただけではなく、新型コロナウイルス以前の2019年の成果をも上回りました。2022年は2021年に比べ、診断・治療者数は140万人増加しました。他の疾病と結核を併せた総合的なスクリーニングや、薬剤耐性結核などに対する新たな治療法といった革新的な取組が、前進に貢献しています。

マラリア

グローバルファンドは、国際的なマラリア対策支援金の65%を提供しています。支援対象国における死亡者数は2002年から2021年にかけて27%減少しました。2022年は、マラリアが疑われる症例の検査数を増加させ、季節性マラリアの化学的予防(服薬)といった費用対効果の高い革新的取組への投資を継続して、マラリア対策をさらに強化しました。しかし気候変動や異常気象が、そうした前進を脅かしています。2030年までのマラリア終息という目標を達成するには、さらなる努力が不可欠です。

主な成果



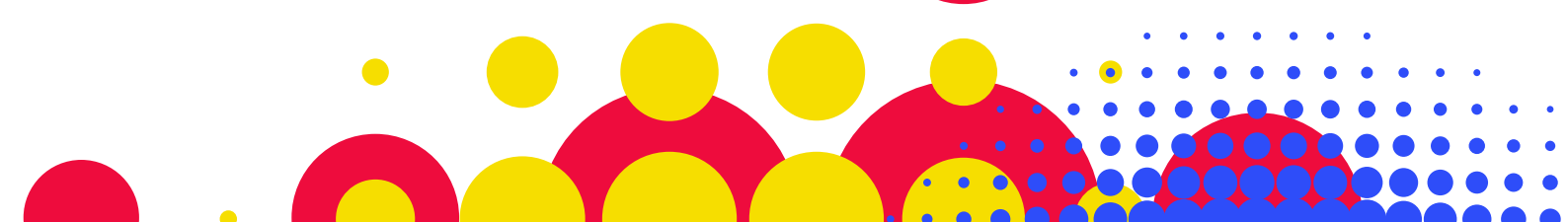
- 2450万人** 抗レトロウイルス療法を受けているHIV陽性者
- 5310万件** HIV検査実施数(1220万件は優先度の高い人々/キーポピュレーション向け)
- 1530万人** エイズ予防サービスを受けた人々
- 71万人** 自らの命と母子感染予防のために医療を受けたHIV陽性の母親
- 83万1000件** エイズ予防目的で行われた自発的な男性割礼手術



- 670万人** 結核治療を受けた人々
- 11万8000人** 薬剤耐性結核の治療を受けた人々
- 33万1000人** 抗レトロウイルス薬を服用しているHIV陽性結核患者
- 220万人** 結核の予防的治療を開始した抗レトロウイルス薬を服用しているHIV陽性者
- 150万人** 結核に曝露し予防的治療を受けた人々



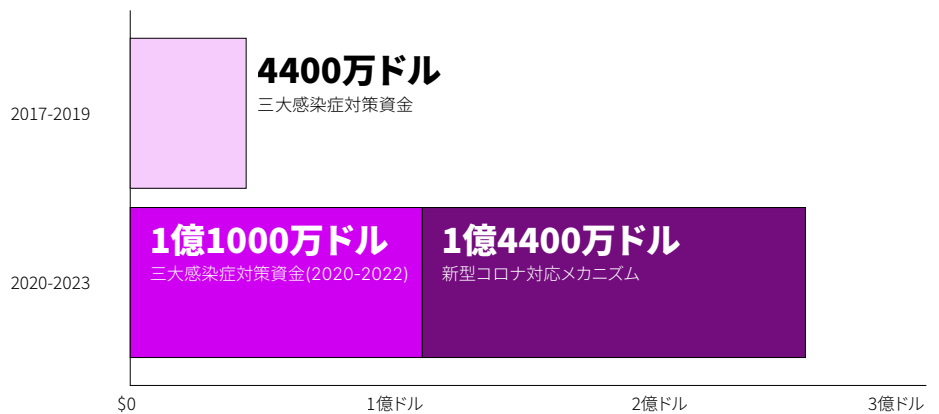
- 2億2000万張** マラリア予防のため配布された家庭用蚊帳
- 3億2100万件** マラリアが疑われる症例の検査
- 3710万人** 季節性マラリアの化学的予防(服薬)を受けた子ども
- 1460万人** マラリアの予防的治療を受けた妊婦
- 1億6500万人** マラリア治療を受けた人々



保健システムの強化

強靱で持続可能な保健システムは、疾病との闘いの基盤であり、現在と将来における世界の保健への脅威を防止し、検知し、対応するための礎です。グローバルファンドは保健システム強化に対する世界最大の無償支援金提供国際機関であり、2021年から2023年にかけては三大感染症対策支援や新型コロナ対応メカニズムを通じて各年15億米ドルを、公的およびコミュニティの保健システムに投じています。新型コロナウイルスの対応においては、各国を支援するため総額50億米ドル近くを調達しました。このうち約22億米ドルが保健システムの強化とパンデミックへの備えの拡充に用いられることになります。強靱な保健システムの鍵となる要素への資金提供を通じて、現在直面している疾病と闘いながら、将来の脅威に備えられるよう、各国を支援しています。

検査ラボシステムへの投資



新型コロナ対応メカニズムの資金は検査ラボシステムなど、強靱で持続可能な保健システムの鍵となる活動に再投資され、現在と将来における世界の保健への脅威に立ち向かえるよう、各国を支援しています。本グラフでは特に検査ラボシステム強化に焦点を当てた投資の増加のみを示しており、他の検査ラボ関連の投資は対象としていません。

危機の重複

新型コロナウイルス感染症のみならず、気候変動、紛争、債務超過、人権の甚だしい侵害、さらには国内あるいは国家間で深刻化する不平等といった多くの危機により、エイズ、結核、マラリアの終息に向けた取組がより困難になっています。これらの危機はまた、最も貧しく、最も社会的に弱い人々に対する、命を脅かす感染症のリスクを高めています。

異常気象がマラリア感染件数の劇的な増加を招いています。食料不安や強制移動によりエイズや結核感染のリスクが高まり、治療も受けづらくなります。経済危機や債務超過によって国々の保健予算が縮小し、その一方で人権の侵害により最もリスクの高い脆弱なキーポピュレーションの、命を救う保健サービスへのアクセスが阻まれています。

グローバルファンドはこれらの危機の対応において、類のない貢献をし得る立場にあります。各国の保健システムの強化のみならず、非常時準備金の提供や人道支援団体とのパートナーシップを通じて、紛争や気候変動により被害を受けている人々を支援しています。

私たちはまた、保健サービスにおける人権やジェンダー関連の障壁の克服にも投資しています。エイズ、結核、マラリアの終息に向けた努力を倍加させ、より健康で公平な世界を構築していかなくてはなりません。



南スーダンのベンティウに所在する国内避難民キャンプの航空写真。約12万人が居住するキャンプ地を洪水が囲んでおり、キャンプを守っているのは土手のみです。グローバルファンドは南スーダン国内で移動を余儀なくされ、「文民保護区」で暮らす人々を対象としたエイズ関連プログラムを支援しています。

MSF-HOLLAND/ Christina Simons